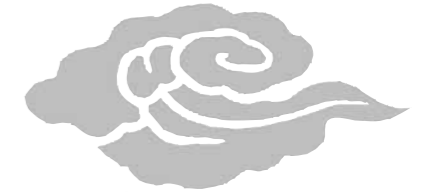


建設会報 いずも



No.123
2011年新春号



編集・発行人 (社)島根県建設業協会出雲支部
経営改善研究委員会

表紙の言葉



古事記編さん1300年

えと文 / 渡部良治

古事記（こじき、ふることふみ）は、その序によれば和銅5年（712年）太朝臣安萬侶（おほのあそみやすまろ、太安万侶〔おおのやすまろ〕）によって献上された、日本最古の歴史書といわれています。

原本は存在していませんが、上・中・下の全3巻に分かれ、後世の写本の古事記の序文に書かれた和銅年、および月日によって年代が確認されています。

「八岐の大蛇退治」や「因幡の白兎」など、お馴染みの神話が多く記されているほか、「古事記」に登場する神々は多くの神社で祭神としてまつられています。

古事記に登場する神話と古代出雲とのかかわりは深く、出雲神話のシンボルともいえる出雲大社は、いにしへの国づくりの裏面史の一端を物語っています。

島根県や観光関係者は、そうしたロマンに包まれた島根の観光を全国に売り出す絶好の機会としてとらえ、古事記編さん1300年や出雲大社の「正遷座祭」を挟む2010年度から2013年度をキャンペーン期間とし、神話にちなんだ多彩なイベントを繰り広げる計画です。



CONTENTS

- ▶ 巻頭言／中筋 豊通〔(社)島根県建設業協会出雲支部長〕……1
- ▶ 新年のご挨拶
 - ／平山 大輔〔国交省出雲河川事務所長〕……3
 - ／大田 忠司〔出雲警察署長〕……4
 - ／宮川 治〔出雲県土整備事務所長〕……5
- ▶ 経営事項審査基準の改正事項 ……6
- ▶ 公益法人制度改革により“一般社団化へ” ……7
- ▶ 平成21年度施工優良工事表彰／表彰一覧 ……9
- ▶ 優良工事知事表彰を受賞して／西 武志〔山陰建設工業(株)〕…11
- ▶ 優良工事表彰を受賞して／井上 英昭〔(株)今岡興産〕 ……12
- ▶ 卯年を迎えて／日下 雅彦〔クサカ建設(株)〕 ……13
- ▶ 年男の抱負／内藤 正和〔(株)内藤組〕 ……14
- ▶ 安全委員会視察報告／高橋 道夫〔大福工業(株)〕 ……15
- ▶ 視察研修旅行に参加して／岩崎 昭子〔(株)岩崎建設〕 ……16
- ▶ 編集後記／梶野 直宏〔経営改善研究委員〕 ……18



覚悟を、危機感を！ 産・官・公・民で知恵を！

(社) 島根県建設業協会出雲支部
支部長 中筋豊通

明けましておめでとうございます
本年も昨年同様、宜しく願い致します。

卯年、今年こそ良い年であって欲しい。

「卯」は『史記』律書によると「茂」（ほう：しげるの意味）『漢書』律曆志によると「冒」（ほう：おおうの意味）があり、モノが生まれる春の気を表していると言われています。「卯」にあやかって明るい年にしたいものです。

ところで、兎と言えば、

- ・出雲神話「ワニを騙した、因幡の白ウサギ」
- ・イソップ寓話「カメに負けた、居眠りウサギ」二つの話が有名で、悪いことをすると、自分に返ってきますよ。自信過剰はいけませんよ。また、コツコツと努力すれば、いつか大きな成果を得ることが出来ますよ。そう教えてくれています。私は、もう一つ兎が登場する童謡「待ちぼうけ」を思い出します。

待ちぼうけ 待ちぼうけ
ある日せつせと 野良かせぎ
そこへ兎が飛んで出て
ころり ころげた 木のねっこ

待ちぼうけ 待ちぼうけ
しめた これから寝て待とか
待てば獲ものは 駆けて来る
兎ぶつかれ 木のねっこ

待ちぼうけ 待ちぼうけ
昨日鍬とり 畑仕事
今日は頬づえ 日向ぼこ
うまい伐り株 木のねっこ

待ちぼうけ 待ちぼうけ
今日は今日ではで 待ちぼうけ
明日は明日ではで 森のそと
兎待ち待ち 木のねっこ

待ちぼうけ 待ちぼうけ
もとは涼しい黍畑
いまは荒野の箒草
寒い北風 木のねっこ

（韓非子の説話「守株待兎」を元に北原白秋が作詞、
山田耕筰が作曲した童謡）

木の根っこに兎がぶつかって死んだ、そうか……。あの日から、兎が飛び込んで切り株にぶつかるのを只ひたすら待つだけの農夫、まさに、我々に警鐘を鳴らしている歌ではないでしょうか。古いしきたり、慣習にこだわると、取り返しの付かないことになる。

グローバル化、公共事業費の大幅削減・受注の減少、競争激化、落札率の低下・赤字受注、資金繰り悪化、経営不振……。

未だ成功体験から脱皮できず、夢を追い続けていないでしょうか。

平成8年度4万6千人だった建設業従業員数が、平成18年度3万4千人に、10年間で1万2千人も減少しました。品質と安全を追求するためには、技術者育成が大切な建設産業界ですが、若者が喜んで飛び込んで来てくれるでしょうか、魅力ある業界創りを、自己努力を怠っては破滅です。

今年度から青年部を中心に、PPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ=事業の企画段階から官民が協力して公共サービスを運営し、行政の効率化を目指す取り組み）の勉強会を開始しました。産・官・公・民が一緒になって知恵を出し汗をかく時代が来たのです、覚悟を、危機感を、出雲支部も殻を破り前向きに行動し頑張ってください。

ありがとうございました。





新年のご挨拶

国土交通省中国地方整備局
出雲河川事務所

所長 平山大輔

新年あけましておめでとうございます。(社)鳥根県建設業協会出雲支部の皆様方におかれましては、穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

皆様方におかれましては、平素より当事務所が取り組んでおります斐伊川の治水事業、河川環境事業等への取り組みへのご理解ご協力をいただき誠にありがとうございます。

斐伊川水系では、治水、利水、環境に関する長期的な方針を示した「斐伊川水系河川整備基本方針(平成21年3月改定)」を踏まえ、昨年9月に今後、概ね20年間における河川整備の目標、河川工事、維持管理等の内容を定めた「斐伊川水系河川整備計画(国管理区間)」を策定いたしました。

今後の河川整備にあたっては、本計画で示しております以下の治水、利水、環境事業の基本理念に基づき邁進して参ります。

- 安全・安心な暮らしを守る(治水)
- 豊かな暮らしの営みを支える(利水)
- 特徴的で良好な環境及び景観を次世代に引き継ぐ(河川環境)

治水の取り組みとしては、平成22年度内に上流の尾原ダム、志津見ダムが完成する予定となっております。また、中流部における斐伊川放水路は全体で約9割の工事進捗となっており、このうち分流堰については平成23年度内完成が予定されております。下流部においては、中海湖岸堤について整備優先順位の高い短期整備箇所から順次事業を推進するとともに、大橋川の改修につきましても地域の方々のご意見を伺いながら、早期に治水効果が得られるよう計画的に事業を推進して参りたいと考えております。また、河川環境の取り組みとして、宍道湖、中海において浅場造成事業に取り組んで参ります。

本年も、地域から愛され、信頼される事務所を目指し、地域の皆様方のご意見に耳を傾け、流域に暮らす一人一人の安全安心の確保や豊かな環境の保全に努めて参ります。引き続き、より一層のご支援・ご協力を頂ければ幸いです。

最後になりましたが、本年における貴協会の益々のご発展と会員皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

出雲警察署
署長 大田忠司

新年明けましておめでとうございます。(社)鳥根県建設業協会出雲支部の皆様方におかれましては輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また昨年中は、お忙しい業務の中、暴力団排除活動や交通安全活動等の警察業務の各般にわたり、格別のご理解とご協力を賜りましたことに対して厚く御礼申し上げます。

昨年中の出雲警察署管内の治安情勢は、昨年10月末現在の各統計によれば、重要凶悪犯罪の発生件数や交通死亡事故件数は、いずれも前年と比較して減少しております。

しかし、県内においては、一昨年に発生した県立鳥根大学女子大生殺人事件については未だ犯人の検挙に至っておらず、また、社会問題化している振り込め詐欺については、次から次へと新手の手口による被害が発生し、当署管内においても、昨年中多数の被害が発生していることから、本年もさらなる被害防止の諸対策をすすめると同時に、未解決事件の検挙に向けて誠心誠意努めていく所存であります。

ところで本年は、暴力団六代目山口組組長が刑務所を出所する予定であり、県内における山口組傘下の団体も、組長の出所とともに勢力拡大を狙っており、その資金獲得のため、暴力団組員が建設工事の現場に作業員を派遣し、その賃金を不当にピンハネする等して資金を得ようとしています。

出雲警察署管内では、皆様のご協力により長年にわたり暴力団の進出を許しておりませんが、勢力拡大を狙う団体がいつ進出してくるかわかりません。したがって今後も暴力団などいない、明るく住みよい社会を維持していくため、皆様方には引き続き

- 暴力団を利用しない
- 暴力団を恐れない
- 暴力団に金を出さない

の『暴力団追放三ない運動』の実践をお願いしたいと思います。

出雲警察署といたしましては、今後も協会の皆様と緊密な連携を図りつつ、犯罪のない安全で安心なまちづくりの実現に署員一同全力で取り組んで参りますので、変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年における(社)鳥根県建設業協会出雲支部の皆様方の安全と益々のご発展を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

出雲県土整備事務所
所長 宮川 治

新年あけましておめでとうございます。(社)鳥根県建設業協会出雲支部の皆様方にはすがすがしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、皆様方には平素より出雲県土整備事務所が取り組んでおります社会基盤の整備や公共施設の維持管理に対しまして、格別のご理解とご協力をいただいておりますことに厚くお礼を申し上げます。

昨年は、厳しい経済情勢が続く中、景気の回復と雇用の確保を図るため、公共事業については平成22年度当初予算における県単独事業の追加措置や平成21年度2月補正、さらに、9月補正での経済危機対応・地域活性化予備費を活用した経済対策、そして11月補正での今年度から来年度にかけて切れ目のない経済対策により公共事業予算を追加確保して、地域の安全安心を確保する防災対策や社会基盤の整備を進めてまいりました。

平成23年度予算については、財政健全化に取り組む一方で、安全安心な県民生活や県の将来的な発展などのために真に必要なものについて、予算の重点配分を行う基本的な考えが示されています。

高速道路をはじめとする道路網の整備や災害に強い県土づくりなど社会基盤の整備は「活力ある地域」を実現するために必要不可欠であり、その整備水準が立ち後れた状況にある地域では、今後とも整備を促進するための取り組みを積極的に進めていく必要があります。

こうした状況の中、出雲圏域は一昨年(2021)年の山陰自動車道斐川IC～出雲IC間の開通により全国の高速道路ネットワークと直結し、人や物の交流の活発化や観光の振興、出雲市内の渋滞緩和など、その整備効果が顕著に現れています。今後、圏域のさらなる発展のため、高速交通ネットワークの形成に向けた取り組みを進め、出雲湖陵道路や多伎朝山道路など残された出雲以西の高速道路の整備とともに、広域道路やアクセス道路の整備を推進してまいります。

また、低平地部の市街地における治水対策や急傾斜地危険箇所における落石対策、道路防災対策など重点的に進め、安全で安心して暮らせる地域づくりに取り組んでまいります。

平成24年には古事記が編纂されて1300年を迎え、平成25年には出雲大社で60年に一度の遷宮、「平成の大遷宮」が行われます。これらのイベントを通して地域の活性化を図る必要があります。引き続き、大社神門通りの整備をはじめ、賑わいのある街づくりを進めてまいります。

こうした真に必要な社会基盤の整備を、限られた事業費で最大限の効果が発揮できるよう効率的・効果的に進め、今後とも地域の発展に重要な役割を担ってまいります皆様方と協力して、よりよい地域にしていきたいと考えております。

最後になりましたが、(社)鳥根県建設業協会出雲支部の益々のご発展と、会員の皆様方の益々のご健勝、ご活躍を祈念いたしまして、新年の挨拶といたします。

経営事項審査基準の改正について

このたび、経営事項審査基準の改正がありましたので、その概要をお知らせします。改正事項は、以下のとおりですが、虚偽申請防止対策の強化の部分は平成23年1月1日から、審査基準の改正の部分は平成23年4月1日から施行されます。

.....経営事項審査基準の改正事項.....

改正の目的

- ペーパーカンパニー等による不正な高得点の取得を防止するなど、企業実態をより公正・適正に評価できるようにする
- 再生企業に対する批判や審査項目の充実に対する多様なニーズへの対応

1 技術者に必要な雇用期間の明確化

①評価対象とする技術者を「審査基準日前に6ヶ月を超える恒常的雇用関係のある者」に限定することで、技術者の名義借り等の不正を防ぐ

②高年齢者雇用安定法に基づく継続雇用制度対象者は、雇用期間が限定されていても評価対象に含める

3 再生企業に対する減点措置

債権カット等により地域の下請企業等に多大な負担を強いた再生企業について、一定の減点措置を創設

【減点方法】社会性等(W点)で以下の方法で減点評価

①再生期間中、一律-60点(営業年数評価の最高点)の減点

②再生期間終了後、「営業年数」評価はゼロ年からスタート

2 完成工事高の評点テーブルの上方修正

建設投資の減少に応じて評点テーブルを補正し、全体としてバランスのとれた評価を行うとともに、適切な入札機会を確保

①完工高(X1)の評点テーブルの上方修正

②元請完工高(Z2)の評点テーブルの上方修正

【修正方法】H22年度の建設投資見込額を基に、X1、Z2評点が制度設計時の平均点である700点になるように底上げ

4 社会性等(W点)の評価項目の追加

①建設機械の保有状況

→ 地域防災への備えの観点から建設機械の保有状況を積極的に評価

②ISO9000シリーズ、14000シリーズの取得状況

→ 多くの都道府県等が発注者別評価点で評価。経審に追加することで、受発注者双方の事務の重複・負担を軽減

【今後のスケジュール】

関連省令等の公布：平成22年10月15日

施行：平成23年1月1日(虚偽申請防止対策の強化の部分)

平成23年4月1日(審査基準の改正の部分)

公益法人制度改革により “一般社団化へ”

社団法人島根県建設業協会（以下「県協会」という。）は昭和39年4月に設立されると同時に、各地区に支部組織を設け、建設業を技術的、経済的及び社会的に向上させ、公共の福祉を増進することを目的に活動してまいりました。

県協会では、平成18年6月2日に公益法人制度改革関連3法が公布されたのを受け、この制度に対応した組織形態を検討するため、新公益法人制度研究委員会を発足し、鋭意協議検討を行ってまいりました。

その後、県協会理事会において一般社団法人への移行を決定し、主務官庁（島根県総務部・土木部）と協議を重ねる中で、次のような指摘がありました。

- ・現在の(社)島根県建設業協会組織は、定款に基づいて認可されているが、定款どおりに組織運営がなされていないこと。
- ・定款では、組織が本部・支部組織となっており、本部のもとに支部が活動、運営されていることになっているが、実態は支部組織が完全に独立しており、財務も人事も単独運営となっており、又支部といわれる事務所も法的登記がなされていないこと。

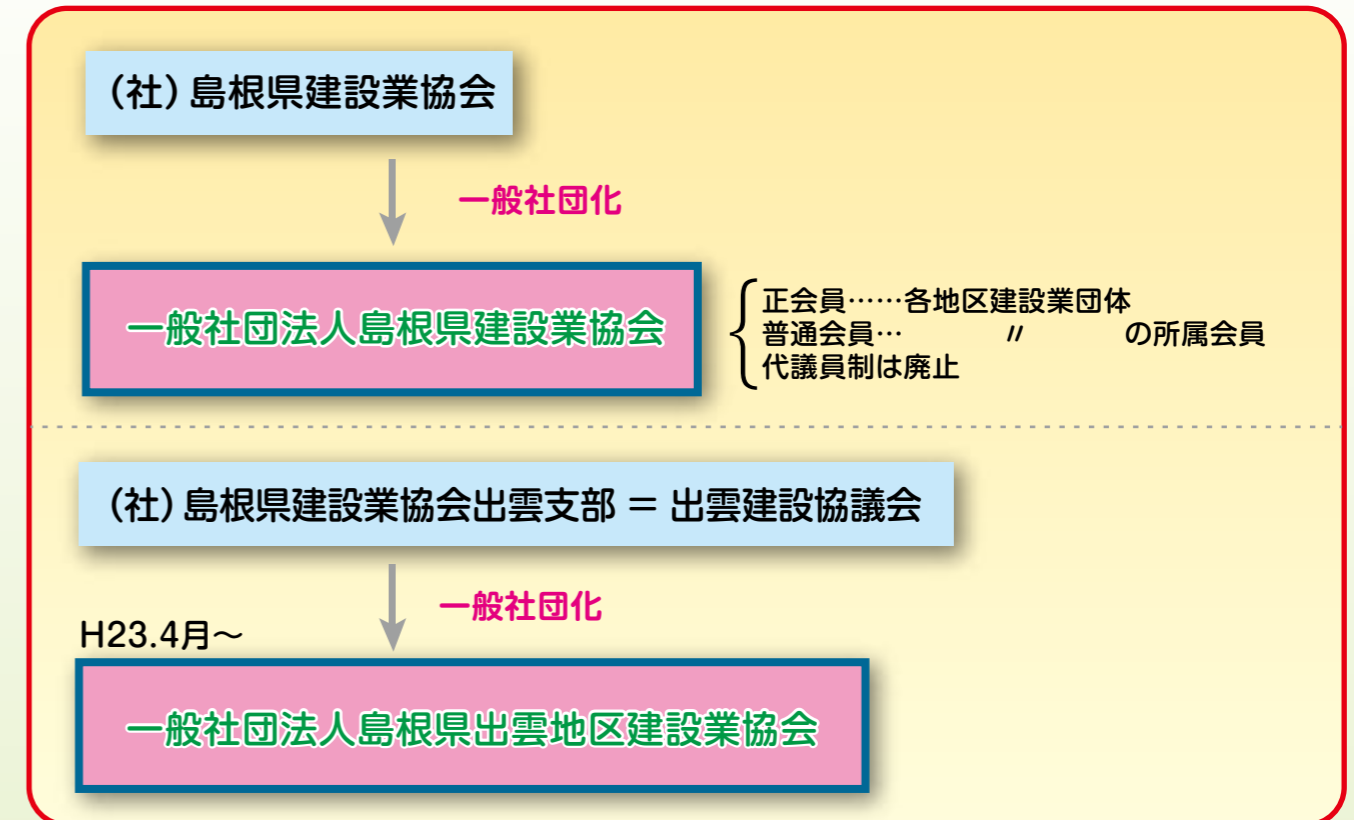
などから、現在の支部組織は支部と表現できないため、一般社団法人移行以前の段階で、現在の定款を実態に合わせて変更したほうがよい、という指導を受けました。

そのため、県協会では、定款内容を

- ①支部名称を解消し、それに代わる各地区建設業団体（一般社団法人）を構成し、今まで通り県協会と連携運営をしていく。
- ②連合体組織となるため、地区建設業団体を正会員とし、そこに所属する企業を普通会員と呼称する。
- ③代議員制を廃止する。

上記のとおり変更することになりました。

平成22年10月18日、県協会理事会において定款の変更並びに一般社団法人への移行手続き計画が承認され、平成23年2月22日に臨時総会を開催し、定款変更（案）を提案することになっております。



一方、各支部においては、県協会の定款変更に伴い、支部組織が県協会と切り離されると同時に、支部という名称も使用できないことになり、団体組織としての活動に制限を受ける恐れがあることから、平成23年4月1日には一般社団法人を設立し、新たな名称により従前同様の活動を行うこととなりました。

出雲建設協議会は昭和23年4月に設立し、昭和39年4月、県協会設立と同時に県協会出雲支部として、今日まで業界の地位向上、発展に努めてきましたが、このたびの公益法人制度改革に呼応して、出雲建設協議会の会則を定款に変更し、

平成23年4月1日から【一般社団法人島根県出雲地区建設業協会】としてスタートをきることをしております。

また、今回、出雲建設協議会を法人化するにあたり、県協会の顧問公認会計士、公証人並びに司法書士事務所等の意見を伺い、定款を作成し、1月17日に行われた臨時総会で承認されたところであります。

なお、当協議会を法人化することは、団体の法律上の位置づけと責任の所在が明確化されることに加え、社会的地位や信用力の向上が期待されるばかりでなく、行政や他法人との契約行為が可能になり、活動の幅が大きく拡大することになります。このように社会的にも客観性の高い活動を行うことで、組織の継続性、安定性がより高まるものと思われまます。

今回の一般社団法人化という一つの区切りを機に、更なる結束と体制の強化を図り、一層の基盤強化に向けた取組みを進めることとします。

平成 21 年度施工
島根県優良工事知事表彰

部 門	工 事 名	施工業者/代表者名	主任技術者
道 路	(一)出雲インター線 知井宮工区 改築(改良)工事 第4期	山陰建設工業 株式会社 代表取締役 小村 洋司	西 武志
	(一)出雲インター線 浅柄工区 地方道路交付金(交通安全)工事 第4期	株式会社 ナカサン 代表取締役 藤江 和夫	田中 誠也
都市計画	今市古志線 地方道路交付金(街路)事業 舗装工事	まるなか建設 株式会社 代表取締役 中筋 廣昭	斉藤 大軸
農業土木	平成20年度 ふるさと農道整備事業 朝山地区 橋梁下部工事	株式会社 朝山技建 代表取締役 太田 正夫	三原 卓久

平成 21 年度施工
島根県優良業務知事表彰

部 門	工 事 名	施工業者/代表者名	管理技術者
土木・地質 調査・測量・ 調査業務	国道431号 美野工区 道路修繕(地すべり)対策工事 調査業務委託	出雲グリーン株式会社 代表取締役 吾郷 直之	原 忠利
土木 設計 業務	(一)出雲インター線 知井宮工区 改築(改良)工事 沈下解析業務委託	復建調査設計株式会社松江支社 執行役員支店長 松原 靖男	菅野 雄一

平成 21 年度施工 優良工事表彰 ◇所長表彰◇

部 門	工 事 名	施工業者/代表者名	主任技術者
道 路	(主)出雲三刀屋線 船津工区 地方道路交付金(交通安全)工事 第2期	(旧)株式会社 別所組 (現)株式会社 今岡興産 代表取締役 今岡 裕統	井上 英昭
	(主)出雲三刀屋線 船津工区 特定交通安全(改良)工事 第5期	今岡工業株式会社 代表取締役 今岡 余一良	神谷 和宏
	国道184号 佐田工区 補修(舗装)工事	日発工業株式会社 代表取締役 藤岡 隆義	坂本 武志
	(一)斐川上島線 直江工区 舗装整備工事	ヒカワ工業株式会社 代表取締役 福田 美樹	川嶋 弥貴
	(一)佐田小田停車場線 毛津工区 新世紀道路(生活関連)工事	株式会社 岩崎建設 代表取締役 岩崎 哲也	岩崎 哲也
	国道184号外 道路維持修繕(舗装その2)工事	株式会社 ダイニ 代表取締役 安達 稔	奥林 和弘
河 川	十間川 広域河川改修工事 第1期	株式会社 日本海建設 代表取締役 青砥 正人	遠藤 明
	神戸川 広域河川改修工事 大向工区(その2)	株式会社 朝山技建 代表取締役 太田 正夫	加藤 清志
建 築	出雲合同庁舎外壁等改修工事	有限会社 エ工ヨシ建設 代表取締役 金築 孝佳	糸賀 広
	出雲警察署小境駐在所 庁舎新築(建築)工事	有限会社 西工務店 代表取締役 西 優治	西 令治
設 備	大社高等学校受水槽、高架水槽改修工事	イマックス株式会社 代表取締役 加藤 幹夫	内田 隆行
森林土木	平成20年度 林道開設事業(森林管理道) 宮本聖谷線 第1工区 道路工事	有限会社 ナギラ建工 代表取締役 柳樂 明	田部 吉修
	平成21年度 林地荒廃防止事業(下組北)山腹工事	株式会社 淞南ダイア 代表取締役 三原 晴治	三原 晴治



優良工事知事表彰を受賞して

山陰建設工業(株)
西 武志

この度、(一)出雲インター線知井宮工区改築(改良)工事第4期に於いて、優良建設工事知事表彰を頂いたことを、大変光栄に思っております。

この工事は、山陰道出雲インターチェンジから国道9号線までのアクセス道路のうち、約770mの工区のL型擁壁から現場打ち用水路、街渠側溝、舗装工事、最後は圃場整備にいたる工事でした。

まず、6月18日の契約から、11月28日の山陰道開通までの5か月間で、仮設道へ切り替えながら本線の土工事から、構造物、排水性舗装までを完成させなければなりません。最初に路床掘削からとりかかり、7月中旬にディープスタビライザーにて路床安定処理を終わらせ、仮設道を舗装し、盆明けに切替えました。構造物工事には3班投入し、毎日の丁張掛けと夏場の暑さも重なってかなりハードでしたが、おかげで余裕をもって進捗できました。また、作業員の方達には2連棟の畳敷の休憩所を用意し、クーラーの中で休憩してもらった結果熱中症にもかからず、工事を無事に進めることができました。

しかし仮設道の大型車両の交通量が多くわだち掘れを何度も補修したため、仮設道と甘く見ずしつかりしたものを作ったほうが、結局近道であると痛感しました。現道から仮設道、仮設道から本線への切替時には、朝夕のラッシュもあり安全施設や誘導灯を多く使い、また作業スペースも通行車両と近接するため、交通誘導員の方々には苦勞をかけました。切替当初は発注者の方々にも心配していただき、夜間もしばらくは交通の流れを一緒になって見守っていたことが思い出されます。

この工区は小学校の通学路であり、工事中歩道が整備できない期間は借地部分の農耕用耕作道から通学していただきました。地道のため雨天時には水がたまり、何度かグレーダーで不陸整正をしたものの結局児童の靴を汚してしまい、大変申し訳なかったです。しかし交通誘導員の方々に耕作道を児童と一緒に歩いてもらったので、安心して作業ができました。

本線の舗装も順調に進み、山陰道開通時には当現場から9号線まで開通待ちの方々の車両がつながりひやひやしましたが、無事に開通でき、一安心しました。

さて、開通後の目標は3月中の借地整備ですが、約10000㎡の土砂を借地から搬出するにあたり、本線が排水性舗装ということもあり、ひたすらタイヤ洗浄と散水の毎日でした。その後の圃場整備も私の経験が浅く何度も手戻りし、地元の方々にはご迷惑をおかけしましたが、立派な田区進入路ができ、結果が残せました。圃場整備も終わり、最後に6000㎡の防草対策舗装にかかりましたが、3月も終盤を迎え寒いなか昼夜にわたり舗装をした結果、何とか竣工検査を迎えることができました。

今回の工事は出来形、品質面はもちろんのことですが、工期の制約と、特に交通・第三者災害に労力を割きました。また、長年にわたる事業のアンカーとして重圧を感じましたが、自分の現場があるにも関わらず、昼夜にわたって協力してくれた仲間たちのおかげで乗り切ることができました。今後はぜひ、自分が協力できる立場になればと思います。

最後に今回の受賞は出雲県土整備事務所の皆様、協力会社の皆様、地元の皆様に御協力いただいた結果であると深く感謝しております。



(一)出雲インター線 知井宮工区
改築(改良)工事 第4期



優良工事表彰を受賞して

(株)今岡興産
井上 英昭

この度、平成20年度(主)出雲三刀屋線船津工区地方道路交付金(交通安全)工事第2期工事に於いて、優良建設工事表彰を頂き、大変光栄に思っております。

また、今回の受賞は発注者の皆様や協力会社の皆様の支え、御協力があったからこそと深く感謝しております。

この工事は主要地方道出雲三刀屋線の改築に伴い、新田川遊水池に橋脚を新設する工事でした。

施工にあたって遊水池内に、場所打ち杭等を施工する為の仮設の施工ヤードを設置する必要がありました。

当初設計では、大型土のうを遊水池内に設置してから盛土を行い、ヤードを作る計画でした。しかし、遊水池内はヘドロが堆積していてとても不安定な地盤の為当初計画通り施工をすると、場所打ち杭、締切り矢板等の施工で大型機械の使用ができない可能性があり仮設工の検討を迫られました。

発注者と協議・検討の結果、仮設ヤードの土留めは鋼矢板での施工となり、遊水池の地盤にはセメント改良による安定処理を行うことになりました。

鋼矢板の施工はクレーンのヤードが狭く、そして施工範囲もクレーン性能ギリギリの範囲であり、また地盤改良についてはヘドロを改良する作業なのでバックホウが池にはまってしまう心配がありました。

自分はこのような条件での施工経験は過去に無く、不安を抱えての施工になりましたが実際に施工をする協力会社の方と施工の際の打合せ等のコミュニケーションを密に行った結果、大きなトラブルも無く、工程通りに仮設ヤードを設置することができました。

この仮設ヤードのおかげで橋脚本体工事の方も事故も無く、施工を完了することができました。

このように、発注者や協力会社、会社の方々に多大な御理解と御協力を頂き工事を完成させることができ、感謝の気持ちでいっぱいでありたいと思います。皆様、本当にありがとうございました。



平成20年度(主)出雲三刀屋線 船津工区
地方道路交付金(交通安全)工事 第2期工事

今後も、現場の条件に即した対応力と、技術力を備えて生涯、現役でありたいと思います。

現在、建設業界には非常に厳しい逆風が吹き荒れ明日のことさえも分からないような状況ですが、これから少しでもこの業界の必要性が再認識されて、再び陽があたることを願いたいと思います。



卯年を迎えて

クサカ建設(株)
日下 雅彦



新年、明けましておめでとうございます。本年もよろしく願い申し上げます。

さて、今年卯年、私の生まれ年、年男です。早いものでもう50前、振り返ってみると歳とったな一、私の人生いろんな事があったな～と思い出に浸る今日この頃でもあります。

私がこの業界に入りましたのは、昭和60年、バブルの絶頂期。大学の建築学科を卒業すると創業100年以上という老舗の東証2部の中堅ゼネコンに入社しました。東京は当時非常に活気があり、業界も建設ラッシュであちこちに大きなクレーンが立つという賑やか振り。しかし、その賑やかさとは裏腹に建設現場は3Kと言われ「きつい」「きたない」「危険」の代表的な職場でもありました。当時独身寮に住んでいた私は夜遅く帰って冷たくなった夕食を電子レンジで温め、テレビを見ながら一人寂しく食事をする日々が続いていました。しかし、そんな環境の中でも心の支えとなるのが寮の先輩や同期の仲間たちでした。酒を酌み交わしながら、いろんな苦労話をしたり、若者の街に出掛けてリフレッシュしたりと楽しいこともたくさんありました。

そんな入社2年目秋のことです。「人生というのは何があるのか分かりません。」という出来事がありました。当時業界としては珍しい企業合併の話が出たのです。相手は東証1部の準大手ゼネコン。後で分かりましたが、当時会社はかなり経営が厳しい状態だったようです。そして100年以上続いた会社の歴史はあっけなく幕を閉じたのです。

合併後広島支店に配属された私は、東京本店から来た若手社員ということで注目を浴びていたようです(気のせいかも知れませんが)。合併後の安定した会社は、いろんな面で前の会社とは違っていました。給料は多い、休日も多い、残業は少ない、そして職場の雰囲気も明るく感じました。東京と違い少し田舎の広島という地域性もあったかも知れませんが、そこでも先輩や後輩、仲間たちが出来、同じ建設業でもこんなに違うんだ、と本当に実感したものです。

そんな2つの建設会社を経験した私は、その後4年の修行を終え出雲に帰り会社を継ぐことになりました。

今、私たちを取り巻く環境は先行き不透明の厳しい環境です。厳しい理由を世の中や他人のせいにして努力を怠っている状況です。というより何をどうしたら良いのか分からないというのが実情ではないでしょうか？

私達のような地方の中小零細の建設会社は、みんなが他人を蹴落とし自分だけ良ければという考え方を持ち会社経営をしたのでは共倒れするような気がしてなりません。協会員各社が協力し合い共に繁栄していけるような業界になれるよう、他方面へのいろんな働きかけや会社同士の連携など共存共栄して行ける道はまだ残っていると思います。「理想と現実は違～わや」と思われるかも知れませんが、理想を追い求めるパワーもなければ明るい未来はないのではないのでしょうか。いや、明るい未来が来ると私は信じたいと思います。



年男の抱負

(株)内藤組
内藤 正和



新年明けましておめでとうございます。

本年は3回目の「年男」を迎え体力、筋力は20代に比べると衰えを感じる事が多くなりました。しかし、「知ること」の楽しさ、魅力は、以前より増しているように思います。

私は高校を卒業して岐阜県の大学に入りました。そして、いずれは出雲へ帰る事を前提に、そのまま岐阜県の建設会社へ飛び込みました。その社会人としての10年間を振り返ると、愛知万博開催もあり豊田自動車も販売好調で、東海地方は山陰地方と比べるととても活気があり、日本の中でも都市部と地方とではこんなに違いがあるのかと思ったほどです。また、この間に現在の妻とも出会い結婚し、二人の子どもにも恵まれ、岐阜県での14年間は自分の人生にとって重要な時期でもあったし、岐阜県に対する愛着もあり、第二の故郷だと思っています。そして、出雲へ戻ってからもう3年が経ちましたが、県協会出雲支部青年部会を始めとする各団体へ入会することにより皆様方との出会いがあり私にとって貴重な経験をさせて頂きました。また、多くの知識も得ることが出来ました。まだまだ、自分自身の経験不足、勉強不足な面も多々あります。年齢的には、これから人生の折り返し地点を迎えようとしていますが、今後も「知ること」の楽しさや何事にも興味を持つ事を忘れず、自己研鑽に努めて社業や地域の発展に寄与したいと思っています。その為にも、健康には気を付けていきたいと思う次第です。「健康第一」という言葉があります。過去を振り返ると、ここまで大病や入院することもなくやってこられた事に感謝、感謝です。今後も引き続き「健康第一」で頑張りたいと思います。

さて、今年も厳しい経済環境のもとで新年が明けました。極めて当たり前の事ですが、事業が存続するためにはその事業の価値が世間に認められ、世の中の役に立つ事が前提です。しかし、その世の中は常に変化を続けています。今までは役に立っていたものが新しい技術開発で陳腐化するか、好況時は喜ばれていたものが一旦不況になると注目されないとか、めまぐるしく様変わりしています。したがって、企業活動というものは常に世の中の変化に合わせて、自らの役立ち方を変えていくことが必要だと思っています。

会社として製品やサービスで今の世の中に合わせた新しい価値を提供することも当然必要な事ですが、社員個人としても世の中に適合するよう新しい価値を創造していかなければならないと思います。これは何も新しい資格を獲得して能力を向上させるというような事だけでなく、身の回りにいくらかでも対象はあります。自らの活動を十分に吟味し、これまでに足らなかったことを一つ一つ補っていくこと、大切なことは一人ひとりの考え方や仕事への取り組み姿勢をお客様への役立ちを高めるといって一点に集中して行動を改善する事だと思っています。そして、地域や民間を中心に活気が出てくれば近い将来我々の業界にも必ずや光明が差し込んでくるのではないかと期待しております。

新年に際して「時代変化の流れに対応していく」という気概を持ち、これから先の一年一年を大切にしたいと思います。

本年もよろしくお願い致します。



安全委員会視察報告

大福工業(株)
高橋 道夫

私たち安全委員は、昨年10月21日、22日両日仙台市で行なわれた第47回全国建設業労働災害防止大会に参加しました。

また、皆様のおかげでこの大会で功績賞をいただけることとなり、ありがとうございました。私にとって十数年ぶりの仙台となり、大変ウキウキした気持ちになりました。当日は、快晴にもめぐまれ午後1時前に会場に到着、大会に参加しました。アトラクションでは「すずめ踊り」が華やかに繰り広げられました。すずめ踊りとは、仙台城の新築の宴席で城の石工を請けた人たちが、即興で披露した踊りに始まるといわれるもので、小気味よいテンポ、躍動感あふれるもので会場はいやでも盛り上がりました。開会、顕彰、講演と無事終了し、私も盾を頂きうれしさが一段と込み上げてきました。(あまりにりっぱな盾に)

その夜は大変美味しいお酒を安全委員の皆様と一緒にいただきました。(仙台なら牛タンですね)一夜明けて2日目は、安全に関する部会(コスモス・土木建築・教育・住宅)に分かれての発表会があり、悩んだ末私は安全衛生教育部会に参加しました。最初は、労働基準局の建設安全対策室長による建設業におけるこれからの安全衛生対策について講演がありました。リスクアセスメントの必要性、実施による成果など事例を取り入れた分かりやすいお話でした。次に、(株)斎藤工務所工務次長さんによる「私も出来たりリスクアセスメント～作業場での一人KY～」では、危険予知の感受性を高めるために時には、家族、子供に置き換えて危険箇所を見つけ出す、何気ない現場の写真や災害事例を利用するなどの工夫が大切であることや、パワーポイントを使っての安全訓練など現場で日常行われている取り組みなどを分かりやすく説明されました。他県の業者がどのような取り組みをしているか大変参考になりました。

今回の大会は、なかなか普段聞くことの出来ない全国的なレベルでの発表や講演を聴くことが出来て私自身大変勉強になった視察でした。

最後に、皆さんがおっしゃっていたことですが、リスクアセスメントを更に充実させるために各社が研鑽すること、分会の安全パトロールでは第一線の方と遠慮なく言い合える環境作りや、危ない箇所を指摘出来るムード作りが大切であると思います。「安全は出雲から」の言葉を汚さないためにも、みんなで一緒に頑張らしましょう。ご安全に!



松島港



全国大会



仙台と言えば牛タンでしょ



「視察研修旅行」に参加して

(株)岩崎建設
岩崎 昭子

まずは、この視察研修旅行を企画・実施された役員様、事務局の方、お世話して頂いた方々に感謝します。また、私のような若輩者が感想を寄せさせて頂く事も大変恐縮に思いましたが、お世話になった諸先輩方への御礼にと思い引き受けさせて頂きました。

この度の視察研修旅行は東アジア地域のハブ港として、再開発事業による施設整備が進められている韓国「釜山」を視察目的に、昨年11月5日～7日に企画されました。私は社長の命を受け、この建設業協会出雲支部視察研修に参加させて頂きました。出発の日の朝、1人駐車場に車を止め、スーツケースを引き、心細くバスに乗り込んだ事を思い出します。参加者名簿を頂きましたが、数名の方しか分からずに初めての参加で内心ドキドキ。女性の参加は、事務局の方2名・大社より1名と私の4名のみでした。ますます緊張～バスにて米子へ。米子空港では、ミーティング室にて挨拶、旅行の説明、1人1人の自己紹介まで…事細やかなミーティングが行われました。

そして、いよいよ韓国へ! ✈️

仁川空港に着き、バスでソウル駅に向かい、そこから私は初めて海外で新幹線(KTX)に乗り込みました。車内では、会員の参加女性が2名という事で土江様にはとても気に懸けて頂き、嬉しかったです。お陰で楽しい2時間半後、釜山に到着。楽しみの夕食は、海鮮料理。夕食の席では皆さんともお話ができ、少しずつ緊張もほぐれていきました。(少々ほぐれすぎた感も…?) 海鮮料理もマッコリも美味しく楽しく頂き、ホテルに向かいました。その後も数人で、釜山の街の散歩(チヂミ屋・屋台)をして楽しい夜を過ごしました。🚗🍷

翌日は、いよいよ釜山港建設現場視察。早朝よりビル屋上展望台にて下を見下ろすと、広大なスケールの埋立現場が広がり、完成には相当な年月を費やしそうな巨大さに圧倒され、驚かされました。



釜山港



龍頭山公園

いつか完成したこのハブ港を利用して、同じ地に立ち、見渡したいと強く思いました。その後、釜山市内観光をし、再び新幹線に乗りソウルへ。

ソウルでは、免税店にて目の保養をした後、次のスケジュールが押していて慌ててバスに乗り込みました。さて、なかなかバスが出発しません。車内がざわざわ…予定の時間を5分、10分…なんと〇〇社長が行方不明!! 免税店で館内放送をしてもらい、ガイドさんは真っ青で探し回り、皆さんもガヤガヤ…突然車内で本人の声が! 「何があった?」と。「は〜あ??」車内の視点は〇〇社長に集中! 点呼ミスや席替えが起こした事件でした。皆さん歓声が沸き起こり拍手喝采。笑い声で満たされ、この出来事は〜《〇〇社長行方不明事件》〜と名付けられました。

それから急いで夕食へ。カルビや韓国料理をお腹いっぱい食べ、飲み、盛り上がりになり上がった夕食を済ませ、ホテルへ帰りました。折角の韓国、私はエステに行かない手はないと、韓国式サウナ・ヨモギ蒸・垢すり・マッサージ・エステの約2時間コースを満喫し、お店専属の現地の運転手さんと15分くらいのホテル迄の道のをボディーランゲージとお互いの片言の韓国語・日本語で楽しいひとときを過ごしました。2人で日本の歌を歌ったりして…部屋へ帰ったのは深夜12時をとくに回っていました。翌日は、お土産を買い仁川空港より無事米子空港へ帰ってきました。行く時には心細くバスに乗り込んだ建設会館の駐車場へ夕方5時頃着き、皆様に御礼とお別れのあ

いさつを交わし帰宅しました。

今回の視察研修旅行に初めて参加させて頂けた事に心から感謝いたしますと共に、皆様にお会いできました事がとても嬉しく、いろいろな事を学習でき、楽しく過ごさせていただきました。

今後も皆様がお元気で、多方面へ御活躍されることをお祈りいたしております。

本当にありがとうございました。



焼肉カルビ おいしかったです



チャガルチ市場



編 集 後 記

年末に2010年新語流行語大賞の発表があり、年間大賞には「ゲゲゲの」が受賞しました。この言葉は、去年は確かに良く聞いたフレーズでNHKの朝の連続ドラマや映画などまさに、「ゲゲゲの」が象徴する言葉であったように感じます。実際にお隣の鳥取県境港市には年間約360万人の方が訪れるほどで、「ゲゲゲの鬼太郎」の魅力を最大限に発揮して、まちづくりを展開されています。同じ山陰の鳥根県民としても大変嬉しく感じるとともに、羨ましく思います。しかし、出雲にも沢山の魅力的な名所や、そして全国的に認知されている「出雲」ブランドがあるにも関わらず、まだ上手く活用できていないのが非常に残念に感じます。

さて、去年は私達を取り巻く環境もまさに、新語流行語大賞の言葉通り「ゲゲゲの」がぴったり当てはまる年であったように感じます。

まず一番は政治の問題です。政権交代から一年以上が経過しましたが、何一つ変わらないことに、国民は発足当初の期待感から絶望感へと変わり、政治への関心が薄れています。また12月閉会した臨時国会においても、尖閣諸島など山積みになっている問題もありながら、法案成立率は4割を切るという低調さでした。国民の生活の現状を真っ先に考えるべきはずが、政権維持の為の国会であったように感じてしまいます。これでは国民の生活はどうなるのでしょうか? 不安が募るばかりです。そして以前より声高に叫んでいた埋蔵金はおろかさらに借金が膨れ上がり、事業仕分けはしたものの、パフォーマンスとしか思えないような事では……。さらに来年度の予算ベースでは、本年度よりもさらに公共事業費10パーセントカットと本当に「ゲゲゲの」と言いたくなるような事ばかりでした。

次は出雲市の合併問題です。ようやく決着はついたものの、後味の悪い結果でした。このことで、どうこう言うつもりは全くありませんが、もう少しスムーズに行えなかったものかと感じます。出雲市民としては、少し「ゲゲゲ」と感じてしまいます。

さて話は変わりますが、去年歴史上の人物で注目を浴びた人がいます。それは坂本龍馬です。NHKの大河ドラマでも放映され、全国各地で龍馬をモチーフとしたまちづくりが展開されました。坂本龍馬はこの国を「何とかせんといかん」と立ち上がり、今の日本の礎を築いた人物です。そのような魅力が国民に愛される理由ではないでしょうか。では、現代版の坂本龍馬は誰でしょうか? 確か政治家の方で、自分は現代の坂本龍馬と語った方がいらっしゃいましたが、今その影は薄く何をされているのでしょうか。今まさに日本に必要なのは、現代版坂本龍馬ではないでしょうか。「この国を何とかせんといかん」そんな志が高い、強いリーダーの存在が待ち遠しく思います。